



若い力と福祉防災力

神奈川県大和市 一般社団法人やまと災害ボランティアネットワーク
代表理事 市原 信行



当法人は神奈川県大和市を中心に防災減災活動を日々活動行っております。

災害ボランティアの地域での意識の向上を目的とした人材育成を行っています。

日々地域の皆様方と地域防災、地域の方々の連携協力。そういったものが大切であると。

皆さんにお願いをしているところです。

私ども団体は阪神淡路大震災を機に地域での災害ボランティアがとても大切であるとの思いから地域での災害ボランティアに対するネットワークを構築していこうと、立ち上がった団体です、阪神淡路大震災以降、東日本大震災では改めて地域防災の大切さを知りました。

地域防災とは自治会や自主防災会といった防災を考えるグループや団体だけでなく、地域を担っていく全ての方々の参画が必要であると考えています、やはり地域の防災は自助、共助を進めていく事だと思えます。

若い方々の防災意識の向上を願い、防災に関わるまたは防災に対して興味を示してもらうといった取り組みが必要になります、過去の災害においても福祉と防災について共に考えていかなければならない、と被災経験者は話します、即戦力となり若い方々の参加は必須です。

当法人の取り組みは中学生や高校生、大学生による東日本大震災の教訓や語り部を聞いたりまた、震災そのものをしっかりと学ぶ研修、被災地の研修会などを行い、災

害の本当の意味での怖さや被災者の皆様の苦勞であったり、そういったものがわかっていただける教訓として理解をしていただきたい、そういった人材育成に取り組まなければならないと考えています。

大学生を対象に、学生福祉防災を考えるグループを作りまた、各地で神奈川県内各地域での5つの団体などを学生たちと共に作ってきました。

これによって、地域の青少年指導員や民生委員の方々など災害ボランティア育成等にも毎年訓練や講演研修などにも取り組みができてきました。

小学生や中学生においてはマンホールトイレや紙トイレ、あるいは非常用のトイレの学ぶ体験も行ってきました。

当法人では大和市、大和市社会福祉協議会や行政（関係機関）と共に自主防災会や自治会災害関係ボランティア団体の各種研修も実施をしてきました。

幅広い年齢層を防災の意識を高めていただくために定期的に開催をし、また、近年では災害のボランティアセンター等々の運営に関わるIT化などの訓練や防災フェスタなどで活動の仕組みをご紹介します。

神奈川県でも2019年。台風15号、19号により横浜市では工業地帯の工業団地が高潮と台風により敷地内が水により氾濫し、車や工場の機械など多くの被害がありました。

同年、10月神奈川県川崎市では多摩川の



オールヒーローズプロジェクト連動企画金沢区工業団地クリーンアップ



高校生による音楽プレゼント



笑顔支援P (阿蘇YMCAにて)

氾濫により下から水が床上に上がってきたりし、例えばトイレが下から逆流をしてくてしまう、そのような現象が起こってしまい、当然その後の処理として清掃や消毒、そういったものが必要となってきますまた、地域での共有の生活排水側溝など地域の皆さんで清掃し、いち早く日々の生活に戻る必要があります。

令和5年神奈川県では『ぼうさいこくたい』が神奈川県で開催されます。

ぼうさいこくたいとは国民皆さんに防災意識を高めてもらうという取り組みの一つです、地域の皆さんの防災意識の向上を図るのはとても大変なことと思っています。

若い年代からの防災意識を高めていく日々の活動がとても大切であると考えます。

これからも防災の意識を高めるために子供たちと一緒に街を歩いたり、あるいは子供たちと一緒に防災倉庫考えていく、あるいは中学生や高校生に防災倉庫の管理をしてもらい、そういったことを一つ一つ積み重ねていくことが大切な事例の一つではないかと思っています。当団体ではこれからも地域防災のために少しでも皆さんの意識が高まっていただくことを願い、活動を継続していこうと考えております。